

●データの概要

- アジア－米国間の1年あたりのコンテナ輸送貨物量は、直近（2020年以降）においては、輸出は1,900万／輸入500万TEU前後で推移。
- 輸出入共に中国のシェアが大きく、特に輸出に関しては1位中国の約1,200万TEUに対し、2位ベトナムが約250万TEUであり、大きく差が開いている。
- 輸出はほぼ全ての国で増加傾向にあるが、輸入は中国着貨物量の落ち込みの影響を受けて全体の量は減少傾向にある。
- 日本発着貨物は、輸出60万／輸入70万TEU程度で推移している。東西岸別のシェアは輸出入共に70～80%であり、特に、輸出においては東岸シェアが年々増加傾向にある。
- 日本発着貨物をトランシップ経路別で見ると、過去10年で輸出は90%→60%、輸入は90%→80%程度に低下している。
- しかし、西岸に限った直航率は輸出入それぞれ90%, 95%程度を保っている。
- 東岸の直航率は、2021年夏頃から日本－米国東岸直航便が無くなった影響で低くなっている。
- 日本発着貨物を本船発着港別に見ると、西岸輸出は東京港、名古屋港、神戸港のシェアが高く、2022年はそれぞれ40%, 30%, 20%程度となっている。西岸輸入はそれら3港に加え横浜港のシェアも高い。東岸は輸出入共に絶対量が少ないが、輸出で東京港、輸入で東京港・神戸港のシェアが高い。